



2024年1月吉日

年頭のご挨拶

日本洋酒輸入協会
理事長 磯野太市郎

2024年の年頭に当たり、会員の皆様方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。平素より、当協会の運営に格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、振り返りますと、去年は輸入洋酒業界にとりましても先の見通しが利かない混迷とした一年でした。

昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類型に移行となり、社会経済活動の正常化が一段と進み、飲酒に関するイベントも各地で盛んに開催され、繁華街等への人流も増えているとの話も聞かれるとともに、経済活動も回復傾向にあるとの報道もありました。一方、コロナ禍の影響は思いのほか強く、飲酒を伴う宴会が戻ってききましたが、人手不足が常態化し売上が伸びず閉店する居酒屋やパブも少なくなく、また、イスラエル・ハマスの紛争を契機とする中東情勢の悪化も加わり、国際情勢の不安定さが増す中で、資材費用、輸送費などの高騰や世界的な金融引締めに伴う円安は変わらず、輸入洋酒需要が回復したとまでは言い難い状況でした。ウイスキーを除き洋酒の輸入数量はコロナ前の水準には戻っていないにも関わらず、輸入金額は大幅に増加するという異常な状況が続きました。

本年は、昨年10月の果実酒の増税もあり、嗜好品である酒類を扱う輸入洋酒業界を取り巻く環境は依然として厳しいことは言うまでもありません。

しかしながら、社会経済状況に目をやりますと、昨年12月の日銀短観では「大企業製造業のみならず中小企業製造業も業況判断指数がプラス圏に浮上した。景気の回復基調が裏付けされた。」との報道もございました。30年来続いてきたコストカット型経済から持続的な賃上げや活発な投資がけん引する成長型経済に向かいつつあるように感じられます。

また、足元では訪日外国人客数は順調に回復し、200万人を超えコロナ禍前の水準に迫る勢いです。原発処理水問題で中国人訪日客数の戻りは少ないとは言われておりますが、円安の恩恵もあり一定のインバウンド需要は見込むことができます。繁華街等への人の流れも確実に増えており、酒類の支出額や外食時の飲酒代も改善されつ

つあり、居酒屋やパブの店舗数はコロナ前の7割近くにとどまっているものの、店舗当たり売上は回復基調にあるといった話も聞かれます。年末に向け来客で賑やかな店舗も少なくありませんでした。

そして何よりも、この1年間会員の皆様をはじめ酒類業界関係者の皆様が、コロナ禍からの復活をかけて、様々なイベントを企画し新たな製品を販売するなど、しっかりした準備をされてきたことを忘れてならないと考えております。「リアルでの開催」というフレーズも過去のものになりました。

どうしてもコロナ禍前の2019年と比較し状況を考えがちですが、一歩ずつ前進していくことが今必要と感じている次第です。皆様方の弛まぬ努力が実を結び、輸入洋酒業界を取り巻く環境が少しずつではありますが改善されるものと期待をしております。

さて、本年の課題と抱負についてお話しさせていただきます。

まずは、税制改正関係です。昨今の輸入洋酒市場は、コロナ禍から一步脱却し明るさも見えつつありますが、依然として厳しい状況にあります。残念ですが昨年10月には第二段階の税率改正でワインは増税となりました。円安や輸送費の増大などにより、商品価格の値上げが既に実施されている状況下において、この増税が輸入数量の一層の下振れの要因として働くことが懸念材料です。このため、現在実施されている税率改正後を見据えて、改めて関係当局に果実酒の減税を要望してまいります。

次に、製造ロット番号削除問題です。生産から消費までの過程を追跡することを可能とする同一の識別番号が製品ロット毎に付されていますが、その番号が意図的に削除された輸入品が国内で流通しております。「製造ロット番号が削除等された酒類の流通は、消費者の酒類に対する信頼性に疑念を与える可能性があり望ましくない」旨の国税庁通達は発遣されてはいるものの、法的拘束力が無いためこのような酒類の流通が後を絶ちません。問題解決に向けて国税庁と意見交換会を数回に渡り行いました。引き続き、要望実現に向けて取り組んでいきたいと考えております。

三点目は、製品への純アルコール量の表記問題です。飲酒ガイドラインは漸次制定に向け手続が進んでおり、酒類業界としては、早晚製品への純アルコール量の表示について議論が進むこととなります。焦点の一つは、ワインやウイスキーのようにシェアーする製品にどのような表示するのか、容器全容量に含まれるグラム数或いは飲酒形態に応じたグラム数とするかが大きなポイントとなります。会員の皆様の意見も踏まえ対応してまいります。

そのほか、引き続き有機 JAS 認証に関する同等性の交渉状況など、会員の皆様にとって有用な情報を提供していくこととしております。

最後に、2024年は甲辰（きのえのたつ）です。「甲（きのえ）」はたっぷりと養分を蓄えた、固い種子が芽吹くときを意味し、「辰」は龍であり大自然の躍動を象徴しています。ここから、甲辰は「これまでのコツコツと蓄えられた学びが芽を出し、活力に満ちた草木のようにすくと伸びて、努力が花を咲かせる」というような意味になると聞きます。

2024年はその今まで準備したものが結実されるよう会員の皆様と力を合わせて輸入洋酒市場の一層の発展を目指し活動していく所存です。

本年も引き続きご支援等を賜りますようお願い申し上げますとともに、会員の皆様の益々のご発展を祈念申しあげまして、年頭の挨拶とさせていただきます。